

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 5 月 22 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	楊木 萌

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
鹿児島県熊毛群屋久島
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
屋久島実習/野生動物・行動生態野外実習
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
平成 29 年 5 月 13 日 ~ 平成 29 年 5 月 19 日 (7 日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学野生動物研究センター 屋久島観測所
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>本実習に参加し、私は鹿児島県の屋久島を訪れた。今年の屋久島実習はサル・シカ班、植物班、寄生虫班に分かれており、私はサル・シカ班に所属し屋久島のニホンザル (<i>Macaca fuscata yakui</i>) の分布域について調べるため、フィールドでルートセンサス法を用いた調査と Q GIS を用いた解析を行った。</p> <p>【日程】</p> <p>5 月 13 日：出町柳から電車で伊丹空港へ、伊丹から飛行機で屋久島空港へ。 5 月 14 日：西部林道にてルートセンサス法による調査 5 月 15 日：永田岳、宮之浦岳にて調査 5 月 16 日：一湊地区にてルートセンサス調査 5 月 17 日：データ解析、発表準備 5 月 18 日：発表準備、発表会、打ち上げ 5 月 19 日：掃除、観光、屋久島空港から飛行機で伊丹空港へ、伊丹空港から電車を出町柳へ</p> <p>今回の実習では、サル・シカ班合計 8 人で一つの調査テーマに取り組み解析、発表に臨んだ。複数人、ましてや多国籍の仲間と共に同じテーマの元フィールドワークを行うのは初めてであったため、様々な課題に向き合いながらの実習となった。ルートセンサスを行う上での定義の確認、細かな記載の仕方など、今後の解析を想定しながら一つ一つ話し合い、決定していく作業は難しくもあったが、その分学ぶところも多く、有意義な時間を過ごすことができた実習であった。</p> <p>フィールド調査では、ほぼ一人一つの区間を担当し歩いて調査を行い、区間内で発見した糞、音声、及び直接観察個体をそれぞれ検出結果とし、全てを余さず記録した。調査区間は屋久島中の多岐にわたり、三日目は往復 9 時間をかけて宮之浦岳周辺の調査に臨んだ。森林の中を歩き調査を行う中で、屋久島の貴重な自然環境にも触れることができ、充実した貴重な時間を過ごすことができた。</p> <p>フィールド調査の後、我々は二日間をかけてデータの解析、発表の準備に取り組んだ。全ての検出結果は GPS の位置情報を基に整理、集計が行われ、Q GIS を使用し調査結果の図示、また植生分布図、標高情報との関連付けを行った。初めて扱う Q GIS は手探り状態からのスタートで、中々思ったように操作ができず試行錯誤を繰り返したが、その甲斐あってある程度の操作方法を身体で覚えることができた。その他 R による統計、エクセルを使用した計算など基本的な操作を一から教えていただき、指導していただいた教官、学生の方々には心から感謝している。</p> <p>最後に、この屋久島実習全体を通して得られたことの一つとして、雄大な自然に接することができ、改めて環境保護、生物多様性の重要性を認識したことを挙げておく。PWS ステーションはウミガメの産卵地としても有名な美しい海に接する素晴らしい立地環境にあり、同じく実習に参加した学生たちと共に日々海岸、星空を眺め過ごしたことは強く印象に残っている。これらの光景を含め、調査中に遭遇したヤクザル、ヤクシカ及び多くの動物種、屋久杉をはじめとした多様な植物種がこれからも変わることなく繁栄していけることを願ってやまない。屋久島内の一部の地域では、農作物の被害を考慮し、ヤクザルをはじめ鳥獣の捕獲を行うと聞く。人間と野生動物の間の様々な葛藤はこれからも存在するであろうが、我々研究者は自然環境、野生動物の動向を注視して観察しつつ、人間の活動が環境にどのような影響を及ぼすのか慎重に評価していく</p>

## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

必要がある。今回の実習での体験を通し私は以上のように考え、野生動物研究の意義、重要性を改めて確認することができた。



図 1. 観測所から望む海岸



図 2. 調査中の風景



図 3. *Macaca fuscata yakui*

### 6. その他 (特記事項など)

本実習は PWS リーディング大学院プログラムの援助を受けて行いました。本実習のためにいろいろな手配をしてくださった皆様に深く感謝申し上げます。実習期間中、ご指導していただきました半谷先生、本郷様、栗原様、本田様、には大変感謝しております。また実習に参加されていたその他の先生方と観測所に滞在されていた方々、学生・招聘者のみなさんにも大変感謝しております。